

# 福山市総合戦略評価報告書

2021年（令和3年）9月

福 山 市

## 評価の概要

### 1 趣旨

2015年10月に策定した福山市総合戦略は、人口減少や東京圏への過度な人口集中、地域経済の縮小といった課題を克服し、地域で住みやすい環境を確保するため、まち・ひと・しごと創生に係る施策を総合的にまとめている。2020年3月には一部改定し、計画期間の終了を、当初計画の2019年度から2020年度へ1年間延長するとともに、目標指標等の見直しを行っている。

今回、6年間の計画期間が終了したことから、今後の施策構築に係る改善等につなげるための評価を実施したものである。

### 2 めざすまちの姿と実現するための4つの視点と施策

#### めざすまちの姿

安心・安全な社会を基盤として、乳幼児から高齢者まで、地域のだれもが心豊かに、生き生きと自分らしく暮らせるまち。

家族、地域、職場など、多種多様なコミュニティにおいて、人と人とのつながりが大切にされ、お互いが助け合い支え合う中で、だれもが「必要とされている」、「大切にされている」と実感できる社会。

#### 実現するための4つの視点と施策

##### 視点1

##### 安定した雇用を創出する

- (1) ものづくり産業の競争力強化
- (2) 第一次産業の活性化
- (3) 若者定着の促進と安定した雇用の創出
- (4) 高等教育機能の強化

##### 視点2

##### 魅力を高め、新しいひとの流れをつくる

- (1) 観光振興
- (2) 地域振興

##### 視点3

##### 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- (1) 結婚の支援
- (2) 出産・子育ての支援

##### 視点4

##### 安心・安全に暮らし続けることができる地域をつくる

- (1) 医療・福祉サービスの充実
- (2) 健康づくり
- (3) 時代に対応したまちづくり
- (4) 地域を支える人材育成

### 3 評価の対象及び基準

4つの視点及び視点に位置付く施策ごとに、掲げた数値目標の達成率により評価を行った。評価基準については、次のとおりである。

#### 4つの視点に掲げる数値目標

「達成率＝直近の実績値／目標値」とし、次の基準で評価。

- A 達成率 100%以上
- B 達成率 80%以上 100%未満
- C 達成率 60%以上 80%未満
- D 達成率 60%未満

#### 4つの視点に位置付く施策に掲げる数値目標（KPI（重要業績評価指標））

「達成率＝直近の実績値／目標値」とし、次の基準で評価。

- ◎ 達成率 100%以上
- 達成率 80%以上 100%未満
- △ 達成率 60%以上 80%未満
- × 達成率 60%未満

### 4 外部委員の意見

福山みらいづくり懇話会委員の評価と意見を記載している。

（福山みらいづくり懇話会構成団体）

福山商工会議所	福山市商工会連絡協議会
公益財団法人ひろしま産業振興機構	福山市農業協同組合
公益社団法人福山観光コンベンション協会	ソフトバンク株式会社
広島県東部観光推進協議会	福山大学
福山平成大学	福山市立大学
福山職業能力開発短期大学校	京都大学
株式会社広島銀行	株式会社中国銀行
株式会社もみじ銀行	株式会社日本政策金融公庫
株式会社商工組合中央金庫	連合広島福山地域協議会
一般社団法人福山市医師会	

# 1 安定した雇用を創出する

数値目標項目		単位	基準値		目標値		評価
市内従業者数		人	206,888 (2012)		213,750 以上 (2020)		—
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	目標値見直し後の実績がないため評価不可 次回調査 2021 年 2022 年公表予定	
—	213,750	—	—	—	—		

(総括)

- 産業支援拠点機能の充実による企業の経営力強化を始め、若者の雇用対策や働きやすい職場環境づくりなど、安定した就職・雇用継続につながる取組を進めた。
- 市内従業者数については、2021 年の経済センサス活動調査で調査を行うため、2022 年度に評価を行う。

## (1) ものづくり産業の競争力強化

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	評価
福山港国際ターミナル取扱量	TEU※1	83,000 (2018)	84,000 (2020)	—	—	—	82,731	82,635	75,381	○
大卒者の地元就職率※2	%	31.7 (2014)	40.0 (2020)	34.0	33.1	30.8	30.2	28.5	28.3	△
製造品出荷額等 (1月～12月)	億円	18,284 (2013)	20,000 (2020)	21,448	19,375	17,258	17,930	17,138	17,164	○

※1 Twenty-foot Equivalent Unit の略。20 フィートコンテナを 1 単位として、港湾が取り扱える貨物量を表す単位

※2 市内大学の卒業者のうち、就職希望者の市内就職率

### (成果等)

- 福山港のコンテナ物流トライアル事業やクルーズ船のポートセールスに取り組み、利用促進を図った。また、ふくやま港まつりを開催し、福山港の魅力発信を行った。福山港国際ターミナル取扱量は、2018 年度から 2019 年度までは横ばいであったが、2020 年度は船舶運航会社の事業統合による定期船減便や新型コロナウイルス感染症による経済動向などの影響により減少した。
- 大卒者の地元定着につなげるため、産業支援機関と連携し市内中小企業と大学生とのマッチング機会の充実を図ってきたが、大卒者の地元就職率は低下している。
- 中小企業支援・創業支援拠点として、福山ビジネスサポートセンターFuku-Biz を開設し企業の経営力強化を図った。また、地場産業の振興として、デニム製品を通じた産地 PR 等に取り組み、本市及び備後圏域の知名度向上やデニム関連事業者の販路拡大を図った。
- 今後、デジタル技術を活用した生産性向上や経営戦略の見直しなどを支援し、持続可能な経営につなげていくとともに、企業の稼ぐ力を強化していく必要がある。また、市内外の企業の投資の受け皿として、成長産業などが集積する福山北産業団地の造成を着実に進め、本市への本社機能の誘致や拠点分散化を促進することで、経済の活性化と雇用の創出につなげる必要がある。

## (2) 第一次産業の活性化

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
認定新規就農者数	人	3 (2014)	5 (2020)	3	5	9	4	2	4	○
6次産業化による新商品開発 (累計)	件	—	17 (2020)	1	4	9	11	12	16	○
首都圏販路開拓事業の マッチング件数 (累計)	件	—	30 (2020)	0	1	5	28	41	58	◎

(成果等)

- ・ 担い手を確保するため、就農フェアにおいてPRを行った。また、備後フィッシュやワインなど地域の農水産物のブランド化に取り組み、認知度向上を図った。
- ・ 6次産業化を通じた所得の増大を図るため、アドバイザーの派遣により、商品開発や首都圏への販路拡大支援に取り組んだ。
- ・ 今後、担い手の高齢化や後継者不足などの課題を解決するため、デジタル技術の活用による生産性の向上をめざすとともに、企業参入による担い手確保に取り組む必要がある。

## (3) 若者定着の促進と安定した雇用の創出

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
女性の労働力率 (30～34歳)	%	71.1 (2010)	75.0 (2020)	73.4	—	—	—	—	— 2022年 公表予定	○
創業促進セミナー受講者数	人	—	250 (2020)	122	104	179	234	110	87	×
女性創業者数	人	—	25 (2020)	21	34	21	14	17	28	◎
知的財産アドバイザーへの 相談件数	件	315 (2014)	550 (2020)	308	354	431	531	447	423	△
産業支援コーディネーターの 派遣企業件数	件	28 (2010～2014平均)	55 (2020)	51	53	49	54	51	146	◎

(成果等)

- ・ 女性の起業応援を始め、女性が働く環境整備の支援や女性向けの企業説明会などにより女性活躍を推進した。
- ・ 若年者の就職を支援するとともに、雇用のミスマッチを解消するため、出前講座や企業見学会などを実施した。また、企業の経営者や人事担当者に対し、採用力を強化するための研修を実施し、人材確保を支援した。
- ・ 若者の創業機運を醸成するため、創業促進セミナーを実施した。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、セミナー開催件数が減少したため、受講者数は減少した。
- ・ 産業支援コーディネーターの派遣や知的財産総合支援の充実などに取り組み、中小企業のイノベーションや課題解決につなげた。

- ・今後、誰もがやりがいを持って働けるよう、テレワークの導入など市内企業の働き方改革を促進するとともに、企業の経営者層や従業員の意識改革に取り組む必要がある。

#### (4) 高等教育機能の強化

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
大卒者の地元就職率(再掲)	%	31.7 (2014)	40.0 (2020)	34.0	33.1	30.8	30.2	28.5	28.3	△

(成果等)

- ・市内大学を始め、県立広島大学等の市外大学と連携し、ビジネスリーダー養成講座やデータサイエンスセミナーを実施するなど、次世代の人材育成につなげる体制を整えた。
- ・今後、高等教育機関や企業との連携を強化し、デジタル化・グローバル化など新たな時代に必要となる知識・スキルを身に付けた人材を育成する必要がある。

(福山みらいづくり懇話会委員の評価及び主な意見)	
評 価	
	非常に効果的な施策であった。
	相当程度効果的な施策であった。
○	効果的な施策であった。
	効果がなかった。
主 な 意 見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者定着の促進のためには、ものづくり産業の競争力強化に加えて新産業の導入も検討することが望ましい。また、第一次産業・第二次産業の企業に対して、ICT分野などの新規事業へのチャレンジを促す施策が必要ではないか。</li> <li>・大卒者の地元就職率の低下は減少幅も大きく、危機的と言ってよい状況と考えられる。まずは要因をしっかりと分析した対応を行うとともに、まちの魅力を高める政策が重要ではないか。また、従来以上に官民一体となった取組が必要ではないか。</li> <li>・市外の大学へ進学した学生の地元への就職も重要ではないか。</li> <li>・若者による創業が増えることは市の活性化につながる。コロナ禍という状況を見据えると、DXやバイオなどの先端分野の起業が活発になるような環境づくりを大学や金融機関と連携しながら進めていく必要があるのではないかと。また、若者定着のためには、活気あるまちづくりが必須であり、福山駅前の再開発に期待する。</li> <li>・高等機能教育の強化にもっと力を入れてはどうか。また、子どもが様々な体験をすることができる場が必要ではないか。</li> </ul>	

## 2 魅力を高め、新しいひとの流れをつくる

数値目標項目		単位	基準値	目標値	評価	
福山市への転入超過 (1月～12月)		人	△379 (2014)	300 (2020)	D	
2015年	2016年	2017年	2018年	2019年		2020年
△ 856	△ 441	△ 344	△ 260	△ 466		△ 751

数値目標項目		単位	基準値	目標値	評価	
総観光客数※1 (1月～12月)		千人	6,758 (2014)	7,720 (2020)	D	
2015年	2016年	2017年	2018年	2019年		2020年
7,269	7,293	7,249	7,162	6,296		3,792

※1 2019年から算出方法を「広島県観光客統計調査に関するガイドライン」に沿って算出しているため、単純比較はできない

(総括)

- ・ 定住人口や関係人口の増加に向け、本市の魅力発信やワーケーションの推進に取り組んできたが、転出超過となっており、特に20歳代の転出超過が顕著となっている。
- ・ 観光振興については、情報拡散力のある首都圏の20～34歳の女性に対する認知度向上の取組のほか、本市を訪れる県外客の中でも割合が高い関西圏のシニア層に対する観光誘客など、ターゲットを明確にした情報発信を行ってきた。その結果、観光客数は増加したものの、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した。

### (1) 観光振興

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	評価
備後圏域の総観光客数※2 (1月～12月)	千人	20,920 (2014)	24,152 (2020)	23,268	23,720	24,643	23,023	23,320	15,745	△

※2 2019年から算出方法を「広島県観光客統計調査に関するガイドライン」に沿って算出しているため、単純比較はできない

(成果等)

- ・ 備後圏域タクシー観光キャンペーンの実施や鞆の浦しおまち海道サイクリングロードの整備など、圏域での観光振興に取り組んだことにより、総観光客数は2014年と比較して増加していたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少した。
- ・ 今後、ポストコロナを見据えながら、食などの観光コンテンツの磨き上げや情報発信に取り組むことで観光誘客につなげていくとともに、宿泊や飲食など多くの分野への経済波及効果が期待されるMICE誘致を推進していく必要がある。

## (2) 地域振興

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
移住について具体的な相談に入っている者数	件	—	100 (2020)	47	34	42	40	36	36	×
市の知名度やブランド力の向上に対する満足度(市民アンケート調査) (調査実施年)	%	17.5 (2015)	22.5 (2020)	17.5	—	—	—	—	14.4※	△
福山ブランド認定・登録制度への応募件数(累計)	件	—	300 (2020)	75	128	182	220	265	265	○
道の駅等への来場者数	千人	222 (2014)	241 (2020)	220	255	250	240	225	213	○

※ 2020年の数値は、「市の知名度の向上につながる情報発信力」に対する満足度

### (成果等)

- ・ 戦略推進マネージャーなどの兼業・副業人材の活用を始め、ワーケーションなどの柔軟な働き方の推進や情報発信に取り組んだものの、移住について具体的な相談に入っている者の数は横ばい状態となっている。
- ・ 福山ブランド認定や福山アンバサダーの取組により、首都圏などの市外での本市の認知度は高まってきている(2020年10月に行った「福山市情報発信に関するインターネット調査」では、首都圏において、福山市に関して「知っているものはない」と答えた人の割合が58%(2017年の調査では70%)。が、市民の満足度の向上にはつながっていない。これは、市外への知名度向上の取組について、市民への情報発信が十分ではないことが要因の一つと考えられる。
- ・ 道の駅を活用した地域活性化を図るため、備後圏域内の道の駅等連絡会議の開催により連携体制を構築したほか、高校生レストランなどの地域資源を生かしたイベントを実施した。
- ・ 今後、地方移住への関心の高まりを新たな人の流れにつなげていくため、二地域居住の推進など関係人口の創出に向けた取組を強化する必要がある。また、中心市街地の活性化のほか、福山城やばらなどの地域資源を活用したまちづくりなど、都市魅力の創造に向けた取組を強化していく必要がある。



(福山みらいづくり懇話会委員の評価及び主な意見)

評 価	
	非常に効果的な施策であった。
	相当程度効果的な施策であった。
○	効果的な施策であった。
	効果がなかった。
主 な 委 員 見	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ コロナ禍のため、適正な評価は困難である。</li><li>・ 観光客数の減少はコロナ禍でやむを得ないが、社会動態について転出超過が大きくなっているのは危機的な状況。福山城や市役所を含め、多くの主要ポイントがコンパクトな空間にまとまっている都市は珍しく、ポテンシャルは大きい。</li><li>・ 観光やMICEについては、当面ウィズコロナを前提に検討していく必要があるが、更にターゲットを明確にし、単年度ではなく中長期計画で施策を推進していくことが重要である。例えば、観光面ではコト消費の推進や回遊性を高めること、製造製品面ではデニムをもっと前面に出すことなどを今まで以上に進めてはどうか。</li><li>・ 地域振興に関しては、福山ブランドの認定・登録制度応募件数や道の駅来場者数等の施策の効果は認められる。</li><li>・ コロナ禍において、大都市圏からの分散化が促進される可能性が高まっているため、ワーケーションなどの取組を一過性のものとせず、継続的に実施する必要があるのではないか。</li></ul>	

### 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標項目		単位	基準値	目標値		評価
出生数 (1月～12月)		人	4,232 (2014)	4,232(現状維持) (2020)		
2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
4,237	3,911	3,954	3,721	3,598	3,584	

数値目標項目		単位	基準値	目標値		評価
合計特殊出生率 (1月～12月)		—	1.73 (2013)	1.81 (2020)		
2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
1.70	1.60	1.67	1.60	1.60	— <small>厚生労働省からの 情報提供後、算出 し公表</small>	

(総括)

- ・福山市の出生数及び合計特殊出生率は、2019年(2020年度公表)時点で目標値に及ばなかった。しかし、合計特殊出生率については、同年の全国(1.36)や広島県(1.49)と比較して福山市は高い水準にあり、福山ネウボラを中心とした切れ目のない子育て支援体制が一定程度整ってきた結果であると考えられる。

#### (1) 結婚の支援

KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
ふくやま de 愛サポーターが仲をとりもった数(累計) (婚活イベントでのカップリング数など)	組	—	100 (2020)	4	11	37	67	98	98	○

(成果等)

- ・結婚の支援として、ふくやま de 愛地域サポーターやふくやま de 愛企業内サポーターを通じた婚活Caféなどを開催し、年間20～30人の仲を取り持つことができた。また、アフターフォロー調査や交際に関する相談の受付なども実施し、結婚につながる環境づくりに努めた。

## (2) 出産・子育ての支援

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
一般不妊治療受診(申請)数	件	—	450 (2020)	417	534	325	171	138	166	×
子育て応援支えあい事業の活動グループ数	グループ	3 (2015)	5 (2020)	3	3	3	3	4	4	○
地域子育て支援拠点事業を実施する施設数	施設	29 (2015)	34 (2020)	29	30	31	33	33	34	◎
子育て支援システムへのアクセス数(月平均)	件	—	20,000 (2020)	—	—	—	3,375※	5,422※	5,186※	×

※ 福山市子育て支援サイトへのアクセス数

### (成果等)

- ・不妊治療や不育症治療に要した費用を助成するなど、出産支援の充実を行った。
- ・キラキラサポーター(子育て支援ボランティア)を中心としたグループで実施する子育て応援ささえあい事業のほか、乳幼児及びその保護者が相互交流できることに加えて、子育てについての相談・援助等を行う地域子育て支援拠点事業など、子育て支援の充実を努めた。また、病児・病後児保育等の保育サービスの充実を始め、小児救急医療体制の確保、子どもの医療費助成の対象範囲拡充など、子どもを産み育てやすい環境づくりを行った。
- ・2018年度には子育て支援サイトをリニューアルするとともに、子育て支援アプリの配信を行い、子育て情報の発信強化に取り組んだ。
- ・今後も、子育てと仕事の両立等の多様な課題に対応し、出産・子育ての不安・負担を軽減するなど、福山ネウボラを強化していく必要がある。

### (福山みらいづくり懇話会委員の評価及び主な意見)

評 価	
	非常に効果的な施策であった。
	相当程度効果的な施策であった。
○	効果的な施策であった。
	効果がなかった。
主 な 意 見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚支援については、一定の効果は認められる。一方で、若い世代の雇用・生活が不安定なことから未婚化・晩婚化が進んでいるため、若い世代への支援(住宅、教育や職業訓練など)を強化する必要がある。</li> <li>・子育て支援施策については、市がこれまで長年に渡って培ってきた強みとなっている。更なる充実に取り組むとともに、働き方改革や健康経営の推進などの雇用施策を絡ませながらのアプローチが必要ではないか。</li> <li>・出産・子育てについては、経済的支援が連動していないと実現が難しい。各種助成制度を拡充し展開しているが、認知度が低いと感じる。より自然に情報が対象者へ届く手法が必要ではないか。例えば、病院での制度案内や地域情報紙等を活用した周知の更なる拡充など子育てを支援する施策をアピールしてはどうか。</li> </ul>	

## 4 安心・安全に暮らし続けることができる地域をつくる

数値目標項目		単位	基準値		目標値		評価
まちづくりに関心がある市民の割合 (市民アンケート調査)		%	70.8 (2015)		80.0 以上 (2020)		
2015年	2016年		2017年	2018年	2019年	2020年	
70.8	—	—	—	—	70.1		

(総括)

- ・まちづくりに関心がある市民の割合は、70.1%と2015年の調査と比較して横ばいの状態にある。あまり関心を持っていない理由としては、「まちづくりを考える機会が少ないため」(33.4%)や「市民の意見が反映されにくいと思うため」(27.2%)が多くなっている。
- ・2020年度には、様々な市民の声を把握するため、市政モニター制度を創設したほか、支所の広聴機能の強化を図った。また、地域活性化会議を設置し、市民の声を政策に反映する体制を整えている。

### (1) 医療・福祉サービスの充実

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
病院などの整備や保健・医療サービスの充実に対する満足度(市民アンケート調査) (調査実施年)	%	44.4 (2015)	50.0 (2020)	44.4	—	—	—	—	30.3	△
障がい者雇用推進セミナー参加者数	社	43 (2014)	60 (2020)	63	60	69	67	49	19	×
	人	44 (2014)	61 (2020)	96	62	72	84	91	28	×

(成果等)

- ・福山市民病院においては、県東部で唯一、大学病院に準ずる機能を有するDPC特定病院群や地域がん診療連携拠点病院(高度型)の指定を受けるなど、安心・安全な医療体制の確保に向けた取組を進めた。
- ・備後圏域における医療連携会議を開催するなど、広島県、岡山県及び圏域市町との連携を強化した。また、看護職員の復職支援等を行う広島県ナースセンターサテライトを誘致するなど、医師や看護職員の確保に取り組んだ。
- ・郵便局と連携した高齢者の見守り活動などにより、地域包括ケアシステムの構築に取り組んだ。
- ・障がい者雇用を推進するため、福山公共職業安定所などと連携し企業向けのセミナーを実施した。2018年4月に法定雇用率が引き上げられたことを契機に、参加者数は増加傾向にあったが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した。
- ・今後、医療人材の定着・確保に向けた取組を推進するとともに、本市の基幹病院の一つである福山市民病院については広域的な医療拠点として更なる機能強化を進めていく必要がある。

## (2) 健康づくり

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
健康寿命の延伸 (平均寿命と健康寿命の差) 男性	年	1.28 平均 79.59 健康 78.31 (2011)	平均寿命の増加 分を上回る健康 寿命の増加 (2020)	1.32 平均 80.67 健康 79.35	1.32 平均 81.13 健康 79.81	1.26 平均 80.72 健康 79.46	1.29 平均 81.34 健康 80.05	1.29 平均 80.96 健康 79.67	— 2022年 公表予定	○
健康寿命の延伸 (平均寿命と健康寿命の差) 女性	年	2.99 平均 86.46 健康 83.47 (2011)	平均寿命の増加 分を上回る健康 寿命の増加 (2020)	3.06 平均 87.50 健康 84.44	2.85 平均 86.57 健康 83.72	2.81 平均 87.13 健康 84.32	2.87 平均 87.15 健康 84.28	2.84 平均 87.37 健康 84.53	— 2022年 公表予定	◎

(成果等)

- ・高齢者が健康で生き生きと活躍できる健康長寿社会の実現をめざし、フレイルサポーターの養成やフレイルチェック会の開催など、フレイル予防対策を進めた。
- ・ふくやま健康・食育市民会議（フクイク 21）を開催し、関係団体が連携して市民の健康づくりや食育の推進を図った。
- ・健康寿命については男女とも増加しており、市民の健康づくりに向けた取組の効果が一定程度あったと考えられる。
- ・今後、デジタル技術を活用した行動変容を促すデータヘルスやフレイル予防の推進に取り組むとともに、市民の社会参加や地域貢献などの生きがいの充実を図る必要がある。

## (3) 時代に対応したまちづくり

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
福山防災リーダーがいる学区数	学区	47 (2015)	80 (2020)	47	70	67	70	71	71	○
備後圏域の人口社会減の抑制 (1月～12月)	人	△1,574 (2012)	±0 (2020)	△2,326	△2,340	△2,226	△2,197	△2,846	△2,615	×

(成果等)

- ・地域防災力の強化を図るため、福山防災大学の実施による防災リーダーの養成を始め、防災リーダーと連携した学区・地区防災（避難）計画の作成支援などにより、全学区での作成が完了した。
- ・「びんご圏域ビジョン」に基づき、経済・都市機能・住民サービスの3つの視点で、圏域市町や民間団体などと連携し、魅力ある圏域づくりを進めてきたものの、圏域での人口社会減は毎年2,000人を超えている。
- ・今後、激甚化・頻発化する自然災害への備えを万全にするためには、公助だけでなく、自助・共助の観点も重要となることから、更なる地域防災力の強化や市民の防災意識の変革に取り組む必要がある。
- ・また、豊かさが実感でき、いつまでも住み続けたい備後圏域の実現に向けて、産学金官民で連携・役割分担しながら、圏域経済の好循環の促進や圏域の魅力を生かした広域観光の推進を始め、住民サービスの維持・向上に取り組む必要がある。

#### (4) 地域を支える人材育成

KPI (重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価
全国学力・学習状況調査における全国平均以上の項目数 (小学校)	項目	2 (2019)	2 (2020)	—	—	—	—	2	—※1	— 目標値見直し後の実績がないため評価不可
全国学力・学習状況調査における全国平均以上の項目数 (中学校)	項目	0 (2019)	2 (2020)	—	—	—	—	2	—※1	— 目標値見直し後の実績がないため評価不可
放課後チャレンジ教室・土曜チャレンジ教室の登録児童数	人	300 (2015)	700 (2020)	300	376	561	440	467	412	×
社会の役に立つ人間になりたいと回答した生徒の割合 (アンケート調査)	%	93.2 (2014)	98.0 (2020)	94.8	92.3	91.4	93.3	—※2	—※2	○

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

※2 2018年度で調査を終了

#### (成果等)

- ・2016年度に「福山100NEN教育」をスタートし、教職員に対する教科の専門性を高めることで子どもたちが自ら考え学ぶ授業づくりに向けた取組を進めたほか、市立小中学校の学校図書館の整備や空調設備の整備など、子どもたちの学びを支える環境を充実させた。
- ・小学生に対し、地域住民の支援による基礎的な学力補充を行うため、放課後・土曜チャレンジ教室に取り組んだ。参加した児童へのアンケートでは、「チャレンジ教室で勉強するのが楽しみだ」などの意見が出た。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で事業開始が遅れたため登録児童数が減少した。
- ・今後、GIGAスクール構想による学習端末の活用など、引き続き「福山100NEN教育」を推進することで、「学びが面白い！」の深化による主体的・対話的で深い学びを実現していく必要がある。

(福山みらいづくり懇話会委員の評価及び主な意見)

評 価	
	非常に効果的な施策であった。
	相当程度効果的な施策であった。
○	効果的な施策であった。
	効果がなかった。
主 な 意 見	
<ul style="list-style-type: none"><li>・医療・福祉サービスの充実やフレイルなど健康づくりへの施策は一定程度効果的であった。また、市民病院の医療体制の充実についても、高く評価している。</li><li>・健康づくりや防災の面においては、デジタル化による効率的なサービスを検討する必要がある。その際、高齢者などのデジタル・ディバイドを意識した対策も必要である。</li><li>・めざすまちの姿を実現することで、日常生活においてどのような変化が起き、どのように利便性が向上するのかを、具体的に伝えていく必要があるのではないか。</li><li>・コロナを含め災害については、今後も更なる意識改革が必要。時代と環境変化に迅速に対応すべく体制と基盤整備が不可欠である。</li><li>・人材育成については、「小・中・高・大」を通して、福山市ではどのような人材育成をめざしているのか、その人材育成像をアピールするのが良いのではないか。</li></ul>	